

No. 129

全仏

10/42.



特集
全日本仏教徒大会（岐阜）

〈特別インタビュー〉 笠原東大教授に聞く

大会の意義・その展開

里から寺へ お寺さんの理想像

語り手 社団法人在家仏教協会

理事長 加藤辨三郎さん

財団法人 全日本仏教会

大会の意義・その展開

特別インタビュー

テレビ出演中の笠原教授



それは「お祭り」であってよい。だが、それを単なるお祭りで終わらせてはならない。それはどんな性格と意義をもつべきか、どのように展開したらよいのであろうか。

正しい仏教の発展のために真剣な熱情を注いでおられる日本仏教史の権威、とりわけ親鸞研究の大家、笠原一男博士に聞く特別インタビュー。

(文責は記者にある)

これまでの仏教徒大会に対する批判といわれても、私はいままでの大会に一回も出たことがないので。ですが毎回の大会のたびに、それがどんな状況で行われたか、これにはよそながら関心をもっていました。

このたびの大会は十五回目で、岐阜で行われる。そこで地元の岐阜では、大きな期待をかけて、大会準備をしていらっしゃると思えます。

大会が成功するかどうか、その大会のもたらすもの——仏教発展にどういう効果があるか。その

語る人

笠原一男さん

(東大教授・文学博士)

地はまさに岐阜県、天下分け目の関ヶ原というわけですね。仏教徒大会は十四回もすんでこんどは十五回目。もうそろそろ関ヶ原でもいいではないか、別のことばでいえば、まさに水ぎわに追いつけられた形ですね。

大会のたびに、たくさんの方が動員されます、すると当然、時間と金と労力が費いやされる。そこでこれまでの十四回の大会を振りかえってみて、消耗された時間と金と労力に対し、どれだけのものが報いられたか、ということになります。

いろいろ決議されていますね。全仏の事務局などではちょっと手の届かない、世界中の有力政治家がより集ってみても、国連でも解決できないような大問題も出ていますね。

小さな問題、具体的な問題も出ていないことはないが、なんだか、決議のための決議、大会のための大会という感じもします。

大会は単なるお祭り騒ぎであってはならないと思います。お祭りというものは、内容がなくて儀式だけ、形だけの行事を、私たちは、あれはお祭り騒ぎに終ったと申します。そのお祭り騒ぎとい

う印象は、十四回の大会すべてに感じられますよ。

まあこれは、なにも仏教界の大会ばかりでなく、学界の大会、例えば最近の生化学会会議でも、世界中から五千人集ったとか六千人集ったとかいっている、太平洋沿岸の東洋学の研究大会が、ことしの夏、アメリカでありましたがこれも二千人近い学者が集っています。その結果を聞いてみると、これがお祭り騒ぎに終って、その成果はきわめて乏しい。これは大会というものに共通したものでもありませんが、一回や二回ならいいが、十四回もお祭り騒ぎ——というのはどうですかね。もうそろそろ反省してもいいのではないかと。

決議をしますね、誰れが決議をするのか。おそらく仏教会の人たちが決議をするのでしょうか、その実行ということになると坊さんだけで実行できることではない。

実行の裏づけとなると、在家の人たちを、その決議事項によってどう動かすかということになる。

これが大会の決議と実行の相関関係だと思えます。

大会で決議する、氣勢をあげる。この氣勢をあげるということは、大会にとって無意味ではありませんが、やはり決議したことを実行に移す。たとえば毎回の決議を、百分ノ一でもいいから、つぎつぎと毎年実行に移したならば、これが長年つぎつぎと積み重ね、大きな現実的な成果を生むと思えます。

ただの「大会」だけ

岐阜大会の特徴は、僧俗一体の強調といえます。それは当然、そうなくてはならない姿勢です。僧だけでいいなにかできませんか。僧の役割りというものには、俗が信仰をもち、宗教的な生活をする、そのお世話役をつとめることにあるのです。

僧ばかりで大会をやる、俗を除いて僧だけで決議して、それを一般の在家に実行させる、そんなことができるわけはありません。

たとえば大会で決議する、それにいろいろの経過報告をつけて、そのパンフレットを檀信徒に配付しているかどうか。あるいは大会に出席した僧が自分の教区に帰って、自分の寺に帰って、こんな決議があった、そこでこうしたい、ああしたいというダメ押しが行われているかどうかですね。

なぜ、僧と俗が一体になって欲しいのか。

戦後二十年で経済復興はできました。だが精神の世界的戦後復興は野放しのままです。衣食足って礼節を知るといいますが、今日の衣食足った段階で、はじめてこの精神の世界をどうするかということですが。精神の世界のうちでは、この宗教の世界がいちばん大きいのです。

戦後二十年、厳密に申しますなら昭和四十年あたりから、心の戦後の復興が行われる時期なので。心の戦後復興に対し、人びとがいちばん大きな期待をかけているのは、教育家よりもむしろ宗教人に対してです。坊さんは、民衆の心の戦後復興のチャンピオンの役割りをして欲しいという要望が強いのです。

その段階、その局面で、坊さんは結局なにもで

きないんだ、という印象を世間に与えたなら、この信用失墜は二度と再びとり返すことができせん。

そんな意味もあって、もしこの岐阜大会が失敗に終わったならば、もう二度と仏教というよりも、坊さんたちの行事に、協力も援助もしない、この声が出るのは当然のことだと思います。それでこそ関ヶ原というわけなんです。

これまで仏教徒大会は僧だけの大会で、檀信徒はせいぜいオブザーバーでした。つまり在家の者を第二義的、第三義的、いわば従属的に考えた僧だけの同業組合の総会のようなものでした。僧だけの世界で、セイロンとか、外国の仏教界の代表とかが祝辞を述べる、文部大臣も述べる。デモンストレーションにもなり、坊さんたちも自己満足をするわけです。そしてオブザーバーとして参加している少数の檀信徒にこれを見せて、お前たちは仏教界を信頼して、ついてこいという気持があるのではないかと。そんな気持があったらとんでもない大間違いだと思えます。その証拠に、十四回も毎年大会をやりながら、その成果がつぎの年、そのつぎの年に、どんな実を結んでいるか、ただの大会だけに終っているではありませんか。

大会主役は俗であれ

それで私の思いますことは、全国的な大会なり、地方の教区とか、寺院とかを単位にした仏教活動というものは、在家と一緒にあって、むしろ在家を主もにして、坊さんはお世話役に廻るべきだということです。

僧俗一体といいますが、これを呼びかけているのは僧のほうで、俗のほうはそんなことはどうで

もよい、ほんとうの役割を果たしませず、役にも立たぬ坊さんがいなくても、りっぱに信心はできるんだ——という気持ではないかと思えます。

大会にしてもですよ、僧俗一体などいっていいですが、大会に動員された在家の者が、果して本心から、自主的に集ったものかどうか。お寺和尚さんが頼むから、しかたがないからイヤイヤながら出てくるんじゃないですか。

たとえばオリンピックの組織委員ですね。これはちっとも花形ではないですね。坊さんはその組織委員をやりなさいといいたいのです。選手は俗のほうです。その俗が信仰体験の発表なり、今後の仏教活動に対する意見を述べるとか、要するに主役は俗でなければいけません。坊主大会ではダメです。

大会に二万なり三万なりの僧俗が集って、信仰体験なり信念なりを述べますね、これは在家人に信仰上の勇気を与えるのです。大会に集って氣勢をあげる、勇気がでる。その背後のものにも勇気を与えるという効用があるのです。

村村にいて孤立した信仰をもっていると、どうも日本全国で信心なんかしているのは、オレだけじゃないかと思ふ人があるかも知れない。そのような人に自信と勇気を持たせる。その人が新らしく得た信心をつぎつぎに伝達する、それを十万人に伝えたら、一万集っても十萬集ったことになりません。

俗よりも坊主のほうがエライ、つまり坊主エリート意識があるのではないか。この坊主エリート意識なるものは、どこから生れたかという、江戸時代までの坊さんの社会的地位にあったんです。いまではそんなバカなことは通用しません。

坊さんにエリート意識などの時代錯誤があったら僧俗一体などとてもできません。信心については、絶対者に対しては、僧も俗も五分五分です。真宗でいうならば同朋です。救ってくれるものに対しては坊主も在家も対等です。

坊さんの役割り

いまから八百年前の鎌倉時代の僧と俗との関係、江戸時代のそれ、さらに終戦後の現代における僧俗の関係といういろいろありますね。だが僧と俗の関係というものは、僧が俗を救うんぢゃなしに僧はただ取次ぐだけです。坊主が人を救うという、この考えが出たらそれは決定的な、宗祖に対する反逆です。

坊さんが宗教の世界の公僕(こうぼく)の地位から離れる、そして精神の世界、宗教の世界の支配者にもなった気を起したならば、仏教というものは崩れてしまいますね。

坊さんに人を救う力はありません。これは坊さん自体がよく知っています。

人を救う絶対者、それは阿彌陀仏でもよし、法華経でもよろしい。坊さんはその絶対者の救いがあるということを取次ぐだけの世話役です。このお世話役ということが、古今を通じて、さらに将来を通じて、檀信徒に対する根本姿勢でなければなりません。

江戸時代には坊さんは、幕府とか藩とかの下級役人の仕事を代行しました。例えば冠婚葬祭の証明書を出すとか、旅行の証明書を出すとか、そうした下級役人の役割をして、民衆を押へつける手先になっていた。もうひとつの役は坊さんは特高警察の役をしていたわけです。

江戸時代の危険思想はなにかというと、これはキリシタンです。江戸時代の民衆が生きてゆくためには、キリシタン信者ではないという証明がいる、その決定権を坊さんが持っていた。宗門人別改帳を坊さんが握り、この連中はみんな私の檀家ですよ、期待される仏教徒でございますよ、と証明する。だからコワモテがしたのです。そこで

御贈答に!! 記念品に!! 布教用に!!

印度・セイロンより直輸入の仏跡記念品とお決め下さい
洩れなく(御買上一口5万円毎)(これら輸入商品に限り)

◎弊社主催の全国観光温泉地優秀旅館1泊謝恩会に御招待
又は豪華なお品を御贈呈

洩れなく(御買上一口3万円毎)(これら輸入商品に限り)

◎使って必ず喜ばれる日用文化用品を5品御進呈

品目	白壇による	仏像・如意・払子・白扇・香・香合・念珠・御分体・御守札等
印度製	線香	9吋箱入・12吋箱入・贈答用記念品箱入詰合せセット(三組セット)等
セイロン	木彫象牙其ノ他	置物(象・人形)・置物台・盆・贈答用記念品詰合せセット等 念珠・其の他民芸品 菩提樹の葉・沈香・白檀・線香・贈答用記念品詰合せセット等

※詳細は御一報下されば直ちにカタログを御送附申し上げます。

お問合せは
全国総発売元



法衣・莊嚴・仏具
贈答用・記念品

梅金商店

名古屋市中区岩井通4の2
TEL名古屋(052)241-0901・1920
協賛 印度大使館・セイロン大使館 指定推薦 全日本仏教会・輸入元 かたばみ商事貿易部

坊さんと在家の関係が変ってきた。江戸から明治、さらに終戦後と変ってきた。坊さんは役人でもなければ特高警察でもないのです。宗祖が新しい仏教を生み、当時の人びとの中で大きな役割りを果たした。ここにこそ坊さんの理想像を求めねばなりません。

政治でも経済でも救われない、そのようなときこそ、その不幸な時代を生き抜く心の支えを、信仰を媒介して与える、その取次ぎをする、その役割をいまの坊さんたちは果たしているか。決して果たしていないのです。

法を保つもの

長 田 恒 雄

いかに説きまわってても
答えにはならない

それは

賢者でも智者でもない

ころおだやかに

憎しみなく おそれなく

身に説くひと

それこそが賢者智者

いかに説きまわってても

法を保つひととは言えない

身に法を行なえば

法は、おのずから

その身に保たれる

それこそ――

―法句経から―

僧俗、五分と五分

さて、僧の姿勢、僧俗の関係はそれとして、話は前に戻って大会のことになります。この大会のヤマといえますか、いちばん歯ごたえのあるのは部会の討論でしょうが、その議案の持ち出し方が問題になります。

たとえば県市郡仏教会の段階で、僧と俗が一緒になって論議して、提出議案の原案を練るということが望ましい。初めから終りまで「俗抜き」の議案、その議案の討議も俗の方はタッチできない。こんな形で決議されているのを見ると、やはり俗というものを、ただ単に飾りものとして扱い、僧というエリートの場合に俗を参加させてやる、傍聴を許してやる――という思いあがりを感じられますね。

原案を下部組織で練るときに、俗を加えて欲しいのが私の注文ですが、俗の方は意識が低くて俗を加えてもなんにも意見がでないという反撥があると思います。それならなぜ意見が出るように、坊さんのほうで仕向けないか、といたい。坊さんが俗の口を封じようとする組織を作っているのだから、これは意見が出ないのがあたりまえです。部会の中でいろいろ議論が出る、檀信徒はオプザーバーの形で、わずかにそこにまぎれ込んで聞く、これではいけません。

堂々と坊さんと五分五分の見識をもって論議することがなげできないか。俗と坊さんを五分と五分の形で発言させたら、坊さんのほうがかなわない、こんなコンプレックスがあるのではないかとさえ思いますよ。

いまの坊さんは、一般の檀信徒の生活の中の、

コンサルタントの役割りを然やっていない。かつての坊さんは、人生のコンサルタントの役割りを実にみごとにやっていたものです。過去の時代には坊さんは、絶対的な信頼を世間からうけていた、一般の人たちから仰がれる坊さんがいたので

す。
お経を読むことはたしかに坊さんの方が一般の在家より、技術的にはるかに上です。しかし、お経を読むというものは、われわれの生活の中でそうたびたび必要ではない。お経入用のとき以外は、坊さんは忘れられた存在なのです。お経の入用なときだけ、お経がなければ埋葬できないというときだけ、檀信徒より坊さんがエライ、だから日常生活の中でもなんだか、坊さんが方が優れているという錯覚を起こしやす。

坊さんが俗よりすぐれているところはほとんどない。教養の程度をみても俗のほうが上です。それに一般在家は真剣に人生を考えている、毎日苦闘して生きている。

坊さんの方はいまの日本の国民の中ではいちばん無風状態、温室にいるのが坊さんだと思えます。たとえば日本人で、自分で稼いでいる人間で、まず第一に困っているのは税金でしょう、坊さんは税金の苦労なしに、ノンビリやっています。これは特権です。国民の恩に対しても坊さんは応えなければなりません。

坊さんはまずエリート意識というものをみずから反省して、へりくだった考えを持たねばいけません。江戸時代からの内容のない、裏付けのないエリート意識を投げ捨てて、在家の人と五分五分の立場で一緒になって、この世に生き抜くにはどうしたらよいか。宗教というものが、生きるために

いるのかいらぬのか、僧俗が一緒になって考えねばならないのです。

みんな集って考えよう、主張をしよう、その場が仏教徒大会だと私は思います。大会の中で何を生みだし、なにを残すか、この自覚のうえにたつて大会の運営を決めるべきです。それは俗中心で、坊さんはお世話役という形でタッチすべきです。

葬式屋と法事屋

坊さんは葬式屋なり法事屋なりの仕事にウエーを置きすぎる。これ一本に生きてゆくというよな姿勢をとるから、民衆は、もっと宗教家らしい、人生のコンサルタントとしての役割りを果た

これまでの大会

回次	大会の名称	主催・共催した宗派と団体
1	高野山	真言宗 総本山金剛峯寺
2	永平寺	山 永平寺 曹洞宗
3	身延山	山 (身延山) 久遠寺 天台宗
4	比叡山	山 延暦寺 天智宗
5	東大寺	山 東大寺 華嚴宗
6	知恩院	山 知恩院 浄土宗
7	浅草寺	山 浅草寺
8	金沢	山 石川県 真宗大谷派金沢別院
9	大阪	府 仏教会 真宗大谷派難波別院
10	神奈川	県 仏教会 大本山総持寺
11	九州	福岡県 仏教会
12	静岡	岡 仏教会
13	長野	県 仏教会 大本山善光寺
14	長愛	野 長野県 仏教会
15	岐卓	愛知 岐卓県 仏教連合会

して欲しいという要求を出す。それに坊さんが応えないから教派神道十三派というものが幕末から明治初年にかけて生れた。短かい年月のうちに多くの民衆の心を掴んだ。

戦後の社会でも同じです。新興宗教がたくさんの民衆をとらえた。いったい新興宗教は、墓守りを大きな役割りにしているか、法事を仕事にしているか。決してそうではないのです。いかに生きるかということ、信仰を媒介として、その生きる勇気を与える。これが新興宗教の役割りで、民衆もそこに魅力があるからついて行く。

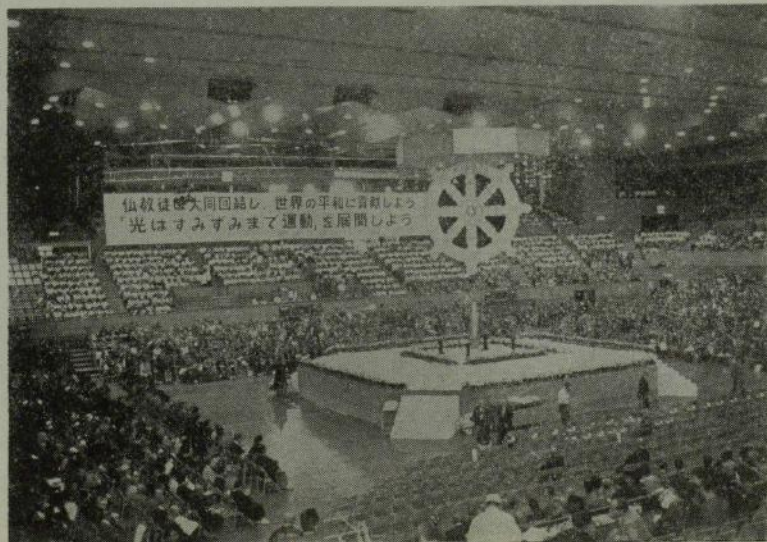
創価学会を例にとってみますと、信者が死んだら、骨は既成仏教に投げかえす。投げかえされた既成仏教は、生きているうちは向うに行っていて、死んで骨だけ返しても、墓守りはしないぞ、と、死んで裁判で負けている、恥の上塗りですね。

どうしても葬式屋、法事屋だけやっていたいといえればそれまでですが、ではいったい既成仏教の果たすべき本質的役割り、人生のコンサルタントの役はいったいだれがやるのか。これを全部新興宗教に肩がわりして貰って、既成仏教は宗教として死んでゆくのかという問題になります。

しかし、過去三百年以上の長い歴史の中で、坊さんが果たすべきことは葬式であり、法事であるというこの考えかたを植えてしまったのですから、坊さんはあくまでも、葬式というものをやっていて悪くはないと思います。

と同時に、それだけに終らず、宗祖の果たした人生のコンサルタントとして、死後の世界という問題と合わせて、信仰を通じて、人生を解決に導くこの役割りを、墓守り、葬式、法事屋とならべて果たしていかなければならないのです。

こんなに盛大だが— 昨年の第十四回名古屋大会の総会場風景



葬式屋と法事屋、これだけやっているのなら坊さんにも税金をかけていいと思います。税金をのがれているからには、やはりそれ以上のもの、いかに生きるかという問題の解決、この役割りを坊さんが宗教の世界で果たしていくべきで、税金を免除されているのだから、その分だけ国民にサービスする義務がありますよ。葬儀社だったらいくら税金をかけてもよいでしょう。坊さんがそういう葬儀一本に徹するのだったら、私は坊さんに税金をかけるように、大いに叫びますよ。

しっかりせよ全仏

話ばかりですが、この大会というものは全日本仏教会（全仏）が主催する。その全仏を強化せよと、全国の坊さんが望んでいるということですが、なにひとつ全仏だけで実行できない弱体なものであったら、それは単なる連絡機関にすぎない。それは組織のための組織であって、外部に対して団結しているのだぞということを示すための、単なるカラ手形ですね。

私は、全仏というものは、それぞれの宗派教団に対して、国連よりも強いものでなければならぬと思います。それぞれの宗派からお義理に人を送っていて、全仏の本部は単なる宗派の一小使いに等しい。これではいけません。たとえば教団での地位は低くても、全仏の本部に身をおいている限り、その人にひとつの権限を持たせるようにする。単なる小使いの寄せ集めであるのだから、これは全仏はカラ手形的存在です。

全仏の本部組織に檀信

徒がないというのもおかしい。在家というものを切り離して、坊さんだけで仏教がやって行けるものなら別ですが、在家あつての坊さんでしよう。にもかかわらず、俗人代表のいない全仏の組織というのは、坊さん同業組合の連合会にすぎない。

たとえば国会ですね。これは議員をプロの政治家と考えると、その政治家は、アマの在家の連中が選挙して、その在家の代表ということになるでしょう。

世襲のプロの坊さんがいますね。この世襲のプロの坊さんは、檀信徒との接触のうえに成り立っているわけです。にもかかわらずいちばん大切な檀信徒を除外してことをすると、全仏組織の中から除外しているということは反省しなければいけません。

大会をいろいろの面で、直接間接に支えている、経済的にも精神的にも、また、人間の数のうえでも、仏教を支えているのは檀信徒でしょう。いわば俗あつての僧なんですからね。大会にしても、もろもろの行事にしても、まず自分のもの、という感じを俗にもたせなければなりません。全仏の中に専門委員会というものがあるんですけど、政治、経済、文学、あらゆる専門家、学識経験者を全仏のブレンとして、そのお知恵を仰ぐ



各宗寺院推奨の特許製品

日日報恩貯金箱

- 10円か100円硬貨で抜取口をあけて毎朝一枚宛日めくりをするものです。
- 在家の方がお仏壇のわきにおいて日めくりの都度おまいりすることを習慣にしてくださいのための起案です。
- 幼い時に親に做って身につくこの習慣が長じてからの生活実践に生きてゆくことをひそかに願うものです。
- 菩提寺から檀家へ寺号を入れ趣旨を附して願っていただければ老若問わず日日合掌の全国運動が起ります。
- 取替用の仏語入日めくりは毎年菩提寺から配られる慣例となれば檀家との縁はいよいよ深い印象となります。
- 寺院行事の記念品とか寄附募金の積立・親睦旅行会費積立・幼稚園児教育用にも利用できます。
- 価格は貯金箱560円仏語入日めくり190円（教区組織・地区組織による一括ご注文の場合は販売経費節減分を寄附します。問合せ又は見本請求は下記発売元へ）

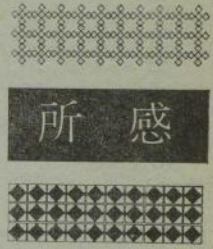
東京都渋谷区代々木1の22
桜菊会館507号（神宮北参道口）

仏事企画協会

べきです。(了)

東海銀行

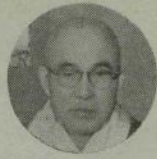
東海の〈ミリオン積立〉で
100万円づくりへ 第一歩



組織力に表敬

全日本仏教会
会長 岸 信宏

全日本仏教徒会議は、回を重ねること
すでに十四回、ことしは第十五回大会を
挙行することになりましたことはまことに
喜ばしいことであります。



この意義のある大会を成功させるた
め、岐阜県仏教
連合会のかたが
たがその準備の
ために、日夜ご
努力くださいま
したことに對
し、厚く御礼申

上げるものであります。

とくに本大会は、昨年の愛知大会で決
議された、檀信徒の結集と組織化を具現
するものであります、そのため、岐阜
県仏のみなさまは県仏に檀信徒部会を設
け、初年度十萬世帯の檀信徒参加を目標
として努力され、すでにそれを達成した
という、まことに驚異的な組織力を発揮
されたことに深い敬意を表するものであ
ります。

仏教はいま関ヶ原に立っているように
思われます。
私どもは、いまこそ仏教徒のひとりひ

待ちうける心

岐阜市仏教会
檀信徒会
会長 若染 一雄



「待つ」とい
うことは楽しい
もので、「鶴首
待望」の字句を
見ても、待つ気
分を十分に感知
することができ
ます。

ことに今日このごろ、み法に恵まれ結
ばれた、仏の子である私たちにはこのた
とりが内に信仰の火を燃やし、外に向っ
ては宗派を超越し、僧俗一体になって精
進しまして、仏陀の慈光を世界に示すべ
きときであると痛感するものでありま
す。

どうか全日本の仏教徒各位がこのたび
の大会に對し、心からなるご支援とご協
力を与えられますようお願いするもので
ございます。(浄土宗総本山智恩院門主)

僧俗一体の願い

大会会長
全日本仏教会
理事長 豊原 大潤

みなさま、よい時候でございます。山
なみ美しく、水清らかなこの地岐阜で、
このたびの盛典はご同慶のいたりてござ

びの全日本仏教徒大会が大きく期待さ
れ、希望に胸ふくらみ、心楽しい張りの
ある暮らしをさせていただいています。
岐阜市の檀信徒部会は県内各地区と呼
応し、すでに校下ごとに支部が結成さ
れ、全市の役員を選出も終わり、四万余
世帯の仏友が、あたたかい手を握り合
い、大会受け入れの態勢と、お手伝いす
る構えが整っております。

全国的、いや世界の仏教徒を岐阜に迎
える、積善のみ教えに生きる者の、喜び
のつどいを岐阜の地で催されることは、
私達の世代では再び望まれぬことな
で、この好機に希望を大きくかけて待
つみ仏の子の私たちにのみ与えられた法
悦です。(岐阜市仏教会檀信徒会会長)

います。



昭和二十九年
に全日本仏教会
ができましたか
ら、仏教の宣揚
と全一仏教運動
を推進する目的
で、このような

大会が行われることになり、その第一回
は高野山大会でありました。

回を重ねることここに十五回、奇しく
も仏法繁盛の地、岐阜でこの記念すべき
意義のある催しが行われることは、私と
してこのうえない喜びでございます。

私どもは、在家の信心深いかたがたと
ビタリ密着した、いわゆる僧俗一体の仏
教活動を希求しているのでございます。
このたびの大会は、その希いが一二〇%

盛り込まれているわけでございますの
で、これからの僧俗一体の活動に、かな
らず大きな成果を収めるものとして期待
しております。

われわれは宗我を超え、固く手をつな
いで、伝統と光榮ある仏教を弘布興隆さ
せねばならぬのであります。

このようないせつな任務をもつこの
大会は、仏教徒のみならず、国民のみんな
が、よほど注目していることでありま
しう。われわれはこれを充分に自覚自省
して、しっかりした大会にせねばならぬ
と思うのでございます。

大会準備のため、岐阜県の檀信徒のみ
なさまのご協力、県仏教会のみなさんの
ご努力に對し、私は心から、厚く厚くお
礼を申上げるものでございます。(西本
願寺派宗務総長)

画期的な大会

大会名誉会長
梶浦 逸外



このたび全日本の仏教徒が、宗派やこ
れまでのゆきがかりを越えて、新しい時
代への仏教をも
りあげようと、
第十五回全日仏
大会が、岐阜の
地で開られる
ことになり、私
はその名誉会長
の役を引受けて東奔西奔させてもらっ
たのである。各宗の僧侶や、県下多くの檀
信徒のかたがたは大会成功のために日夜

精進され、昔から仏法の土地として高僧の輩出した、岐阜、美濃、飛騨の仏法に今日のあるさまは大いに力強く思うところである。

先年、仏教東漸七十年の記念の式典会合がアメリカ各地であり、私もそれに参加したのであるが、これは一八九三年、シカゴで世界宗教大会が開かれたとき、日本からも出席し、それが機縁になって仏教がどんどんアメリカに開教されていったのである。

臨済の釈宗演師はその主役格の一人であり、師はまた明治初年の廃仏毀釈を始めとする危機を克服して、現代仏教を開拓していった一人として「予は一宗一派に踞するを欲せず、ただ一意専心、心身をもって布教伝道する」と、いわれている。

今日われわれもこうした明治の先覚者たちの意思をうけつぎ、釈尊の教えが世界の全人類に届けられるように精進せねばならないのである。

このたびの大会に当り、岐阜県下では十万世帯を超える在家信者が県仏教会の檀信徒部会に参加し、地域ごとに部会を組織し、大会当日の式典において県下檀信徒部会が発足するのである。

「仏教をすべての人々の手に」とかかげたスローガンのもと、第十五回大会は、わが国仏教運動史上、画期的な事業であると確信する。一人一人が仏教徒として、お釈迦さまのみ子としての自覚のもとに、人生や社会を生きぬくよう、また檀信徒部会の運動が全国各地に拡まり強力に進められることを念願してやまない。(臨済宗妙心寺派正眼僧堂師家)

組織力の偉大さ

大会会長 和田耕正

第十五回全日本仏教徒大会はいよいよその日を迎えました。



これにさきだち、さる九月十日高山市の飛騨体育館で開かれた全日本仏教徒大会は、全日

子裏方、顧問六条照瑞尼公のご臨場のもとに、六千人の会員が参加して、時代に生きる仏教婦人の道をたしかめあい、深い感銘の中に力強い宣言決議をもって盛大厳粛に終了したことはまことに力強くもよろこばしいことであります。

全日本仏教徒大会の先駆としての高山大会が、このような成功裡に終わったことは、成功を確信させるものであります。

ビルマ、セイロン両国大使のご臨席、東南アジア仏教徒代表の参加もすでに決まり、文部大臣はじめ大官名士のご臨席も内定し、檀信徒の参加も予定数をはるかに超えております。

とくに大会を契機にその組織化に力を入れてきた十万世帯の檀信徒部会は、八月までにはるかに所期の目標を突破しました。

ラヂオ岐阜の仏教徒の時間、その放送献金運動を通じて、徹底した檀信徒部の組織化運動は、たゆまぬ努力によってみごと僧俗一体を結実し、在家各位のそのすばらしい協力態勢は、大会はもちろ

今後に大きな力を発揮することを確信するものであります。

岐阜県仏教会にとって初めての大事業であり、つき当るひとつひとつのできごとが全く未経験なことの連続でありながら、いろいろの困難を克服して実現したことは、なんと申しましてもこのうえない喜びであり、組織の力の大きさを、いまさながら心強く感じるものであります。

「岐阜は詩の国、歌の国」と県民の歌にもありますように、山樂水明、自然美に恵まれた本県の観光をかねて、ご機嫌よろしく、よい想出になりますよう祈ってごあいさついたします。(岐阜県仏教会会長)

仏青の組織強化

大垣会場実行委員会

会長 福島昭信

一般的にみて、仏教青年の組織がきわめて微弱であるようだから、私はこのたびの岐阜大会を機会に、仏青の組織の拡充強化に、大いに力を入れたと思います。

聞くところでは、校下別に仏青をつくっていらっしゃる方が多いところがある



ようだが、現に仏青の組織のない地区でも、いますぐに結成はできなくても、このたびの大会に参加してその空気にふれることなどが、将来の仏青結成の機縁になるのではないかと思います。

大垣で開られる仏青大会には東本願寺の新聞さまが会長としてお越しになり、大河内東大寺長の講演があり、来賓としてはビルマ、セイロン両国大使、東南アジア六カ国のWFB代表の参加があるなど、多彩豪華な仏青大会になると思えます。

真理に傾くことは光を心に点ずることである。本大会に参加される青年諸君が、大会を通じて釈尊の教をきき、心に光をもって前進されるならば、大会を主催させていただく私共の無上のよろこびとするところである。(大垣市仏教会会長)

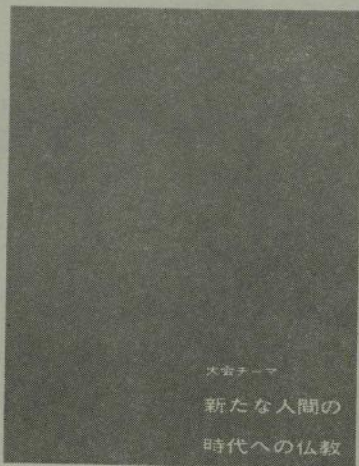
制作 守 作

神章堂

東京部台東区台東4-25
TEL (832) 7515

大きく、より強く》

の人々の手に》



大会テーマ
新たな人間の
時代への仏教



全日本仏教徒大会ひらく

第十五回
岐阜
岐阜

大会行事のあらまし

10月8日・9日 主会場 岐阜県民体育館

第2部会 仏教文化の宣揚に関する事項
特別部会 仏教徒組織の拡充強化に対する具体策
助言者 武蔵野女子大学学長 山田竜城氏
同朋大学学長 山上正尊氏
東京大学教授 笠原一男氏
東洋大学教授 西茂雄氏
東京大学助教授 早島鏡正氏

■ 全日本仏教婦人大会（開催済み）

きと（9月10日飛騨地区大会10時から・全国大会時から）

ところ 高山市飛騨体育館

特別御臨席

東本願寺 大谷智子御裏方

道明寺門跡 六条照瑞尼公

大会講師

奥州平泉中尊寺貫主 今東光師

■ 全日本仏教徒大会（総会）

とき 10月8日・9日（午前10時から）

ところ 岐阜県民体育館

式典

総会

記念講演 花園大学学長 祥福寺僧堂師家

山田無文老師

神学博士・哲学博士・理学博士

和田聖公師

読売新聞社社主 正力松太郎氏

讃歌 東本願寺立付設 大谷楽苑合唱団

アトラクション

郷土芸能

■ 仏教徒会議

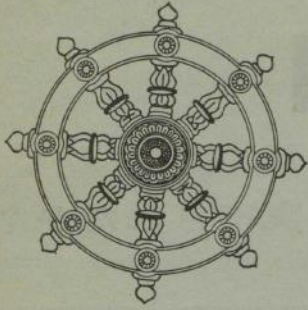
とき 10月8日（午後1時から）～9日

（正午まで）

ところ 岐阜市鶉 聖徳学園女子短期大学

第1部会 仏教の社会活動等に関する事項

（上）主会場の県民体育館
なる聖徳学園短大
大垣スポーツセンター。



大会スローガン

《大法輪のもと、より

《仏教をすべて

いまわが仏教界には、大きな動きがはじまっている。
それは「僧俗一体」ということを、ただ単にかけ声だけでなく、ほんとうに実現しようとする機運の盛り上がりである。それは全国的であり、とりわけ地方県仏を源流にした、新しい仏教運動の流れである。
このときいみじくも、第十五回目の岐阜大会である。
その岐阜大会には新しい性格と意義、そして新しい大きな特徴がある。
僧俗や宗派を問わず、けれども、俗を主に僧を従に、「僧優位」を排して「俗

この大会の特色

優位」に。それによって仏教をすべての人びとの手に、より大きく、より強い仏教の振興を達成しようとする進みかたがそれである。
俗主僧徒による仏教再建は、昨年の第十四回愛知大会で芽ばえた。全日本仏教会を、在家篤信者を加えた組織にしよう、という決議がそれである。これを実現するには、まず、県仏段階での僧俗一体が先決要件である。
そこで「岐阜大会」を決意した岐阜県仏は、県仏の組織のなかに、檀信徒部会を設けることにした。県下の仏教徒三十万世帯、それが約一年のちのいま、市郡

別の檀信徒部会十万人世帯に組織化され、いまもこの編成は県下いたるところの、町に村にと拡げている。わが国では初めての、そして特異な仏教大衆化運動の展開である。
このような背景のもとにひらかれる岐阜大会である、その成功は必然であろう。大会成果もたらずもの、それは「仏教王国岐阜」のゆるぎない安定と発展であろう。さらに、わが国仏教活動のうえに、新紀元を画した功績の金字塔は、岐阜県仏のうえに輝やくことになるであろう。
われわれの大理想「全一仏教」のれい明は、それをこの岐阜大会に迎え、きたるべき大きな跳躍の足場にもなるであろう。

呼びかけコトバ

- 慈悲の献血を推進しよう。
- みんなで、しあわせの鐘を聞こう、鳴らそう。

—岐阜大会—

観 光（平湯温泉・乗鞍岳）

■ 全日本仏教青年大会

と き 10月7日午後1時30分から
ところ 大垣スポーツセンター
換 撈 全日本仏教青年会会長
東本願寺法嗣 大谷光紹師
全日本仏教青年会副会長
池ノ坊家元 池ノ坊専永師

記念講演 東大総長 大河内一男氏
特別来賓 世界仏教青年会代表（60カ国）

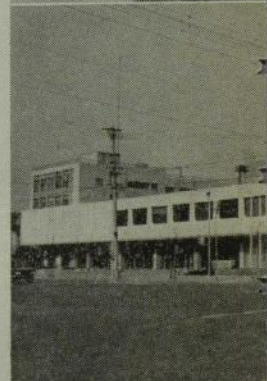
シンポジウム「仏教青年は如何にして社会に寄与し得るか」

市内パレード

■ 幼児と母親の大会

と き 10月7日 午前10時から
ところ 岐阜市民センター

岐阜県仏教保育協会結成式
第15回全日本仏教徒大会祝賀式



< 写 真 > 三会場
(中) 各部会の会場
(下) 仏青大会が

実行報告

決議はどう実行されたか？

第14回(愛知)大会に付議された案件

第一部会

- ① 宗教法人立保育施設の權益を守ろう 日本仏教保育協会 五島 宗宣
- ② 全仏に仏教伝道機関を設置しよう 神奈川県仏教会 能登 有兆
- ③ 全仏を檀信徒を入れた組織を作ろう 愛知県仏教会 精園 俊介
- ④ 仏教政治同盟を全仏教徒のものにしよう 仏教政治同盟 杉本 良智
- ⑤ 海外宗教施設の返還運動をおこそう 浄土宗・浄土真宗本願寺派・真宗大谷派・共同提案 村野 宣忠
- ⑥ 万国博覧会仏教会館の設置に積極的な協力をしよう ヤング・イースト

第二部会

- ⑦ 仏教文化人の組織化をはかろう 福岡県仏教会 二十二 鉄鐘
- ⑧ 北朝鮮遺骨収集促進運動に仏教徒は卒先協力しよう 真宗大谷派 美濃部 薫一
- ⑨ 日本仏教徒は韓国仏教徒と一層親善をはかろう 国柱会 田中 香浦
- ⑩ ベトナムの仏教運動を正確に把握して、国際交流をしよう 近代仏教研究会 壬生 照順
- ⑪ ベトナム救援運動を全国に展開し文化交流を推進しよう 長野県仏教会 黒柳 祖道

第三部会

- ⑫ 仏教青年運動の強化をはかろう 全日本仏教青年会 杉谷 和男
- ⑬ 家庭教育と宗教教育について 全日本仏教婦人連盟 野上 幸
- ⑭ 青少年に宗教心を涵養する方法について 大阪府仏教会 水尾 頼
- ⑮ 青少年の教化活動の基盤としての戒律運動を展開しよう 融通念仏宗 滝野 弘澄
- ⑯ 仏教徒はアイバンク運動に積極的に協力しよう 西山浄土宗 橋本 随暢
- ⑰ 「光はずみずみまで運動」の展開をしよう 愛知県仏教会 藤井 香嶺

第四部会

- ⑱ 仏教婦人活動の効果的方策について 曹洞宗 大川 玄道

上記のように18議案が、各部会で審議された。決議された案件の処理については、別項のように、完結したりまた、現に進行中の事項もある。別項「処理の経過と結果」の記事は、議題や提案団体、説明者などを省いて、一連番号をつけてあるから、その番号と対照していただきたい。また提案理由の要旨は「全仏通信」第116号、昨年七月号にかかげてある。

決議処理の経過と結果

① 宗教法人立の保育施設

仏教保育協会が厚生省、文部省と折衝し、だいたい所期の目的を達したので、このことについての経過と結果をこの大会席上で報告する。

② 仏教伝道機関の設置

いま検討中である。

③ 全仏に檀信徒部会

本件は全仏の組織専門委員会に附託さ

れ、委員会としては各都道府県仏仏においてもそれぞれ檀信徒部会などの組織化がすすめられているので、全仏もなるべく速やかに檀信徒の受入れについて十分研究し、善処されたいとの答申があった。

そこで常務理事会にこの答申を付議したところ「檀信徒部についてはその趣旨はけっこうであるが、全仏機構の全般に關係する重要事項であるから、今後よく研究して善処する」との結論に達した。

この提案をした愛知県仏教会では、本年三月の理事会で会則の一部を変更し、第九条に本会に檀信徒部会および婦人ならびに青少年部会を置くこと規定し、各市単位の檀信徒部会の結成に努力中であることを他府県仏でもすでに十数県仏がこれを推進中である。

岐阜県仏では、この決議を具現するため、檀信徒の組織化を昨年末からすすめており、第一次目標十万人世帯獲得がほぼ達成した。

④ 仏教政治同盟対策

仏教政治同盟は、仏教徒政治同盟と改称し、体質改善をはかって新発足した。

⑤ 在外宗教施設対策

外務省に問合せた。中華民国のばあ、同国はわが国に対して、賠償権を放棄しているため、日本人財産の返還を要求することは、逆賠償の要求の形になる。そこで日本政府は、そのような要求を出さず意向はないとのことであった。しかし、かつての日本の宗教施設が同国の民間のものになり、宗教とは無関係のことに転用されることは好ましくないため、外務省に善処を要望してある。

⑥ 万博に仏教館

東京にある万博準備事務局の倉田次長と数回にわたり協議した。豊原全仏理事

長はカナダ万博を視察した。全仏常務理事会は、全仏に「万博対策委員会」を設置することを決議した。

⑦ 仏教文化人の組織化

昭和三十八年、故鈴木大拙博士を議長に、羽溪了諦、干瀉竜祥、石津照爾の諸師を副議長に「仏教文化会議」を設けている。会員数は現在のところ約三五〇人である。この団体の趣旨目的、事業内容の周知徹底について、これまで不十分であったので、今後はPRに意を用いるつもりである。

本年度は、京都と札幌でこの会をひらいた。そのテーマは「仏教と新しいヒューマニズム」であった。本年度内さらに東京で開催の予定である。

⑧ 北朝鮮、墓参収骨

十余万遺族に代り、全仏会長から先方国要路に対して要請書を提出してあるが、まだなんにも回答がない。自民党の宇都宮徳馬代議士に援助申入れをした。

⑨ 日韓仏教者の親善

昨年九月韓国曹溪宗務院長孫慶山師を始めとして四人の韓国仏教界の重鎮が全仏の招待に応じて来日し、日韓両国仏教徒の親善がさらに深められた。現に曹溪宗総務院総務部長理行願師が来日中で、全仏と親しい交りをむすんでいる。

⑩ ベトナム国際交流

ベトナム仏教徒の来日のはあいは、全仏はできる限りの歓迎をし、日本ベトナム両仏教徒の交流に尽している。日本からは長野県仏教青年会や福島県仏教青年会、棟一師などが、ベトナムに渡りチクアン

師、ナムチャウ師その他仏教会の領袖に会って交かんし、ベトナム仏教事情を全仏に報告し、ベトナム留学生陳徳江君と全仏事務局が座談会を開らきその記事は機関紙「全仏」に掲載した。

⑪ ベトナム文化交流

全仏は昨年四月八日の釈尊降誕会に、東京日比谷公園でベトナム救済大会を開催し、救済資金の街頭募金を行った。また同じ日にウエサカ休戦の署名運動を行い、ベトナム大使館を経てベトナム政府へ休戦の申し入れをしたが、昨年は休戦実現をみなかった。今年もウエサカ休戦の提唱を強力に押し進め、渡越した福島県仏教青年会長吉岡棟一師に依頼して強く休戦を申し入れ、現地で努力した結果、ついにウエサカ休戦が実現した。

⑫ 仏教運動の強化

全日本仏教青年会は全仏加盟団体であり、その育成強化を通じてこの提案の主旨に添いたいと努力している。WFB青年部委員会が日本で開催されたので、その運営を全仏青に委託し、その主体性確立を側面から助けたこともある。

⑭ 青少年の宗教教育

一般青少年、施設収容青少年、離郷勤労青少年と、環境別にわけての提案であるが、全日仏婦から家庭教育および宗教教育について、融通念仏宗からは青少年教化活動の基盤としての戒律運動の展開について、同じ趣旨の関連性のある提案があった。

これについては、この問題の扱いかたを全仏事務局の局内会議でも協議している。

青少年を仏教的に教化することは、その源は幼児教育にあり、両親をはじめとしてその家庭環境が、宗教的ふんい気にあることが必要だということに結論づけられている。

教育の場での宗教教育は、現在の教育制度の建前からして、道徳教育の一部に加味せられている程度以外には進み得ないであろう。

仏教文化会議の議題としてとりあげ、特別の研究部門を設けて検討した結論を、文部省に申入れる方法もある。これは仏教人だけでなく、学者、文化人などを加えた小委員会を設けて討議したい。

することがある。

☆ 議案の説明者が欠席の場合は、その議題は廃案とする。ただし、説明者を変更する場合は、届出のこと。

☆ 部会における議案の説明は原則として一議題一〇分以内とし、一議題についての所要時間は原則として三〇分以内とする。関連質問は許可しない。

☆ 総会における発言時間は原則として

戒律運動による教化策については、聖典編さん委員会に付託したい。

⑬ アイバンク運動

これは仏教者の社会活動として重要なことであるが、予算その他のつごうで四十二年度には実施できなかったが、近い将来には実施することとし、その趣意を加盟宗派、団体に通達した。ただし西山浄土宗では率先実行している。

⑮ 光はすみずみまで運動

提案団体の愛知県仏教会は、第十四回大会を契機として名古屋市内三カ所、尾張地区二カ所、三河地区三カ所の計八カ所の精薄児施設、養老施設に慰問金をおくり法話をした。

さらに本年九月九日、竹田鉄仙会長はじめ幹部が県内の南山寮、養蓮学園、慈友学園へ慰問金を携行し、仏教学生による音楽や奇術などを見せて喜ばれた。毎年これを続けることになっている。

その他の各宗派、団体などでも歳末募金をはじめ、いろいろの方法でこの運動を行っている。

一人五分以内とする。

☆ 緊急に議題を提出しようとする場合は必ず文書で届出なければならない。その採否は議運の決定による。

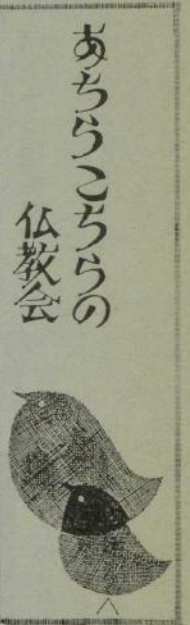
☆ 参加者に対し、印刷物その他の配布を希望するものは事前に大会運営委員会または全仏当局に申し出て、その指示をうけなければならない。(抜すい)

議事運営規則

☆ 発言の許可を得た者は、所属団体名と氏名をつけて発言すること。

☆ 正式参加者以外の者の発言はできない。

☆ 議長、各部長等の指示を無視して会場を混乱せしめた場合には、退場を命



盛岡で全仏講習会

昭和四十二年度(第十二回)全仏講習会はずきのとおりひらいた。

日時 昭和四十二年十月一日(日曜)午前十時から
会場 盛岡市三ツ割報恩寺
後援 岩手県仏教会連盟、盛岡市仏教会
講師と講演

禅と剣(臨済宗天竜寺派師家大森曹玄師)
新しいヒューマニズムと仏教(東洋大学教授文学博士金岡秀友師)

永遠なる浄土—人生の幸福について—(東洋大学教授文学博士田村芳朗師)
参加希望者は会場で受け付ける。参加費は無料、経費は自弁

盛んに仏婦大会

岐阜市でひらく全日本仏教徒大会の関連行事であり、その前奏曲ともなる全日本仏教婦人大会は九月十日岐阜県高山市の飛騨体育館で催された。大会会長の大谷智子裏方(社団法人全日本仏教婦人連盟会長)同連盟顧問六条照瑞尼公ほか約六千人の仏教婦人が参集して盛大であつた。

午前中は飛騨地区大会として四婦人の体験発表があつて聴衆に大きな感動を与えた。午後一時から全国大会になり、式典があつたのち大谷智子会長、六条



静岡県仏婦の島田大会

静岡県仏教婦人会は、全国でもまれにみるほど仏婦活動がさかんである。十月一日午後一時から島田市幸町島田市市民会館で第九回静岡県仏教婦人会島田大会が催され、記念講演は今東光先生が熱弁をふるつた。

埼玉県仏・奉詠大会

埼玉県仏教会は、さる九月十六日午前十時から新装の埼玉会館大ホールに千余人が集り、各流奉詠大会を催し、午後一時から金剛秀一師導師のもとに大法要を厳修した。
同県仏はご詠歌を通じて仏教

宣言

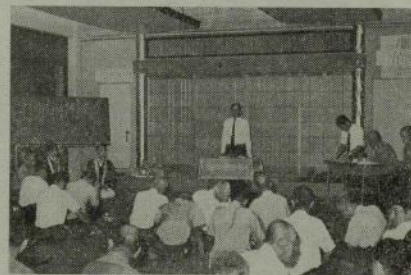
照瑞顧問、全日仏徒岐阜大会の名誉会長梶浦逸外老師などのあいさつがあり、大会宣言、決議を決めて第一部の行事を終つた。第二部では今東光氏の講演、第三部はアトラクションがあり、午後三時三十分大会を終つた。

み仏の教に生きる仏教婦人が、水清く山美しいこの飛騨高山の一堂に会して俱に開信の喜を語る事ができたことを心から嬉しく存じます。
終戦以来二十余年、あの苦しめた戦争の痛みも薄らぎ私達の家庭も社会も文化国家の建設

徒の結果をと、毎年の奉詠大会はすでに二十回になっている。

檀信徒部会発会式

岐阜県羽島市の檀信徒部会の発会式は八月二十七日ひらかれ



た。出席者は約八〇〇人、来賓として河村市長、戸田県議、岩田檀信徒部長、千代菊社長坂倉又吉氏ら臨席。それに大会役員梶浦名誉会長、加納実行委員長、寺町財務部長など出席。加藤会長のあいさつ、梶浦、加納両師の祝辞があつた。坂倉社長から力強い協力のことがあつて、古田紹欽日大教授の講演を聴講して散会。

岐阜市木ノ下校下の檀信徒部会発会式は八月二十七日午後七時から善福寺本堂で行われた。会長に若井明氏、副会長に井上義孝、春日磯治の両氏が決つた。(写真はその発会式)

に相応しい発展を遂げて参りました。

然し他面、文化が進めば進む程、競争心が高まり人間の機械化とともに、人の心はずさみ、貧りと争いに始終して麗わしい伝統と人間性が失なわれて参りました。

殊に、古来より日本の最も誇りとする「家庭」が破壊せられ、青少年の不良化が大きな社会問題となりつつあります。子の養育に当る母として洵に座視することを許しません。

この秋に当り、私達仏教婦人は、先づ自らの身を端し受け難い人身を受けた感激を新たにしつつ、失われてゆく人間性を取

もどして、明るく強く朗かな家庭建設に精進したいと思ひます。
そして苦悩多き現代社会に生きる人々に対して、心の帰依所なくして、真の「和」の世界を実現することのできぬことを茲に結集した全日本仏教婦人大会の名に於て中外に宣言するものであります。

昭和四十二年九月十日
全日本仏教婦人大会
高山大会

なお決議文原案は自己、家庭、社会の完成を期する趣旨のものが議決された。

語り手

お寺さんの理想像

里から寺へ

社団法人 在家仏教協会
理事長 加藤辨三郎

(協和醸酵社長・工学博士)

連載 在家対談

(四)

聞き手前白

既成仏教の教団と僧はいかにあるべきか——これについて在家篤信の諸賢の卒直な指摘と苦言をいただいて、教界の反省研修の資にした。このような趣旨目的でこの「里から寺へ」を企画しました。私は全仏の広報業務をお手伝いしておりますが、根っからの在家の者でございます。どうかご遠慮のないところを……。

聞き手 西本 梧作
(全日本仏教会組織専門委員)

前号からのつづき

加藤 承前—お寺はだいたい多すぎます。だからお寺の合併をやって、坊さんはみんな、忙しい日が送られるようにした方がいいのです。

昔しのお寺さんのように、戸籍のことを扱ったりするような、行政機関のような役目は終ったし、合併してもなんのさしつかえも起りません。

お寺の統合をやらなくて、中途半端なヘッピリ腰でやっていらっしやる。だから、りっぱな営業者にもなれず、さりとして、りっぱな布教者にもなれきれない、どちらつかずにウロウロしなければならぬ。

これは理事長が、事業家であり信仰人であられるので、仕事の合理化というところからの、ひとつの新説でございますね。

加藤 ですから私は初めに乱暴なことをいうと断つてあるわけです。とにかく寺院は数が多すぎます。もっと数を少なくして、残った寺院は多忙をきわめるというふうにするべきです。

それから在家の者も、葬儀なら葬儀を

頼んだからには、チャントそれ相応のお礼を差出すべきですよ。にもかかわらず

在家のある者は、典礼を頼んでおきながら、坊さんにはちよとしたお布施でいいと思っている。そんなことは在家の間違っていることで、それなら頼まなければいい。頼んだら頼んだだけのこと、礼をつくして頼むべきですよ。

こうすれば寺院がはじめて職業化していくのではないでしょうか。また坊さんたちは布教もよいが、その能力もないくせに、無理に下手な法話などなさらんほうがいい。むしろおやめになったほうがいい。

きょうは法事だから、なにかひとくざり説教じみたことをやらねばいかんや、などということはよしたほうがよい、下手な法話をして恥をかきより、りっぱな学僧の書いた本でも、読んでおいてくれ、といって寄贈していったほうがよろしい。

工夫されるなら、どういうふうにして、りっぱな葬式なり儀式をとり運ぶかを工夫されたらよい。

葬儀は絶対必要なことです。自分は無宗教だとか、なんだとかいっても、さて

となることや葬儀をして、墓がどうか、戒名がどうかというのです。むしろ、無宗教だとか無信心だとかいう人は、戒名がどうかいって一生懸命になって力を入れるようです。

理事長は企業家ですから、話しが实际的だし即物的になるわけですが、それでは話の出た序に伺いますが、宗教法人法というのは公益法人、つまり民法法人からわかれたのですが、そのうちの社団法人の会費制度を援用して、檀家なり信徒なりから会費のようなもの、お寺を維持するに足る最低限度のものを、維持費として分賦することにはどうでしょう。収入がなくて困っておられるお寺もずいぶん多いようですが……。

加藤 私はそれは無理と思います。お寺の収入というものは、自然に解決されるべきであって、要するに職業として、堂々と胸を張ってやられるならば、自からそこに合理的な経営というものが生れてくるはずですよ。そうすれば、いまの話の会費制度でなくても、どのお寺も経済的にりっぱに独立し得るようになります。

その経営能力がなければ潰れていくのです。企業だって能力を欠いたら潰れるのですから、要するに栄えるものは栄え、潰れるものは潰れるという社会現象になります。それが自然のすがたです。

お寺の整理統合

——寺院の統合について、こうしたらうまくゆくだろうというご腹案はございませんか。

加藤 たえば、いま経済的に困難なお寺がずいぶん多いのですが、その中には

あとを継いで、坊主になりたくない人が相当多いと思います。そんな人は、さつと学校の先生なり、会社に勤めるなりして、お寺はどうかと合併すればよいわけです。

世襲とかなんとかいって、お寺にかじりついていこうとするところにおかしなものがあります。坊主がいやな人が僧籍にとどまっていなければならない、サラリーマンになればよろしい。そのお寺はやる意欲のある人が運営すればよろしい。お寺を整理統合したあとの住職は忙しくなります。

——その統合はやはり、各宗各派の本山がやるべきでしょうか。

加藤 それはまあ、本山でもやるべきでしょうが、いまの法律では本山の力は弱いことになっていっています。宗教法人は本山も末寺も同じ扱いです。

しかしお寺もいろいろ歴史や事情がありますから、合併もなかなか困難だろうと同情しております。

末寺が二万あるのが一万に減っても、それで本山がすぐ崩壊するというものでもありません。貧乏な寺ばかり二万あるよりも、しっかりした寺が一万になったほうが、本山としてもいいのではないのでしょうか。それは企業と同じですよ。

われわれは、企業の合理化ということばかり考えているのですから、その頭でお寺さんを見ると、寺院の合理化——ということになってくるのです。そのほうが本山も安泰だし、どの宗派も生き生きとしてきます。

いまのように、なんだかヘッピリ腰で、不合理があるのにその不合理を包んでモヤモヤしている。学校の先生をしなから、葬式があると洋服をぬいで法衣をま

とう、というのですから、いかにも中途はんばなんです。

——寺院の統合をやるのに、本山に權威なり能力がないとすると、それでは宗教学法人法の改正でやったらどうでしょう。

加藤 それはできないと思います。世襲制度がいけない。企業のはあい、株式市場に上場されている会社だったら、これは公の機関です。社長が亡くなったら、その息子が社長になるというものではないのです。かならず能力のある者が、その任にたえ得る者が、その地位につかなかつたら、会社は潰れてしまうの



加藤辨三郎さん

略歴

明治三十二年出雲大社の近くの生れ。大正二年京大工学部卒、昭和十五年工学博士、同二十四年七月協和醸酵社長。在家仏教協会の生みの親ですと理事長を続けた育ての親でもある。ほかに経団連役員はか業者団体、関係会社の役員を兼ねなかなか忙しいからだ。加藤さんの思想の根底は、仏教の根本理念、すなわち因縁の道理である。人を責めず、差別のままの平等を深く認知した境地を説く人。

非俗、半僧半俗の中途はんばなものを否定するということですね。

加藤 内面的な自分の自覚のうちでの非僧非俗はともかく、私のいうのは外形的な非僧非俗のことで、それがいかにもなんだか中途はんばだから、それをもっとはっきりなさつたらどうですか、ということです。

坊さんもりっぱな職業ですから、もっと職業意識に徹しなさいということです。にもかかわらず、聖職だとかなんだとかおっしゃって……。そういうところに無理があるのです。聖職というようなことは、ほんとうに

です。それと同じことです、お寺も。

——そういうふうに寺院の合理化をやって、スッキリしたあとでもって、既成教団の坊さんたちが、長夜の眠りからさめた状態になるわけです。それからなにをやるべきでしょうか、残ったほんとうの坊さんは。

加藤 そういう人たちが、なにをやるかということ、その人たちが考えてやりますよ。その人たちは、必らず他に感化を及ぼす人になりますよ。でないで地位が保てませんからね。

——理事長のおっしゃることは、非僧

人を感化し、人の魂をゆり動かすほどのものでないといけない。そういう力のある人が、はじめていうことであって、ただの葬式屋、法事屋でお茶をにごしているだけの人が、それだけで聖職だなんていうことでなしに、りっぱな法事を営むための職業である、ということだけでけこうです。これは内面の自覚の問題なんです。

——鎌倉仏教の段階、宗祖の仏教というものは庵室仏教で、非常に簡素なものであった、それがいまでは、あんな広大なお寺を建て、しかもそのお寺がほとん

ど遊んでいる、これを維持するのにたくさん費用がかかる。あまり経済力のない檀信徒は、だんだん離れていく、大衆はむしろお寺に反感さえ抱いている。

そこでその意味で、理事長のおっしゃる、お寺の企業整備、合理化をやらなければならぬ。そうすると、残った寺院の財政は非常に安定する、坊さんもゆつたりした布教ができる、こういうことになりませぬ。

加藤 さっき会費制という話ができましたが、会費でなくとも、お寺に納める金は、一種の習慣として一定の標準金額をきめたらいいと思うのです。

たとえば、法事を頼むばあいは三千元包むものだとか、ちょっと原稿を書いて貰えば、四百字一枚で千円あげるとか、二千円あげるとか、こうすればどのお寺も財政的に豊かになってくる。したがっていい儀式が営まれるようになる。そしてお寺さんは、その合い間には茶のみ話をしたり、門徒もお寺にお茶を飲みに行ったり、そこに親しみが生れるわけです。いまのように、いつもすぐに金の話だけでは、人が寄りつかなくなりま

新興宗教の壁

——いかにも実業家らしい話です。ところで在家仏教協会のことですが、これは仏法の話を聞いて勉強するのが主なもの目的のように承りましたが……

加藤 そうです、これは聞く会であって説く会ではないのです。つまり、ともどもに聴聞する会ですから、友を呼ぶわけです。つまり一箱に出席する人が多いほど嬉しい、その意味で仏教の普及につながるわけです。おれが法を説いて、ど

うしようというのではないのです。これは非常にはっきりしています。

——つまり東本願寺で唱えている同朋同行でございますね。

加藤 ただ、それを宗派にとわれずしにやりましょうということですか。ですから、私は念仏のほうなんだけれど、禅の人の話は聞かない、なんてことはない。禅であるうがなんであるうが、全部が念仏に帰一しちゃうのです。朝日奈宗源先生の話を聞こうが、どなたの法話であるうが、みんなありがたく念仏の中に溶けこんでいくわけです。

——いろいろな登山口から登っていくというわけですね。

加藤 帰一するところは一元になるわけです。どんな宗旨の人でも、みんな同じ講堂に集って、いろいろなお方のお話しを聞いているのです。各宗各派の人が入っておられますが、新興宗教の方はいません。これは第一、向うがお入りになりませんからね。

——新興仏教については、どうお考えですか。

加藤 私は、自分が信ずるところをどんどんおやりになればいいと思います。やめなさいといってもやめませんよ。しかしかならず壁につきあたる、ある程度して、そして反省の作用が起こる。

——それはどういいう壁ですか。

加藤 現世ですからすぐ壁にぶつかります。人間は死ぬのです。それを長生きさせるといっても現に死ぬ。病気が治るといっても治らん病気がたくさんある。

金持にしても、きょうは金持でも、あしたは潰れる金持がたくさんある。ですから新興宗教では、どういいうこと

をお説きになっていくか知らないが、現世の利益を説く限りにおいては、必ず壁ができて、そして反省作用が起きます。

——できもしないことをいって、愚民愚婦を惑わす、これすなわち邪教、ということになりませんか。

加藤 仏教の教義でやっていますから、仏教の一派であろうとは思いますが、けれども、しかし私はどうも性に合いません。

私は、仏教を信じたから会社が発展するとは思わない。潰れるときにはさっさと潰れます。それから自分の命だつて、あしたの命は判らない。なんぼ私が、朝から晩まで念仏を唱えて祈っても、飛行機が落ちて死ぬことも覚悟している。これが諸行無常です。

——理事長は、本業の社長として、その経営理念においても、また人世観においても、いつも無常観に立脚してやっている。だから根限り、力の限りやれるのだ。こういうことですね。

その思い切つてやれる、という信念がおできになったのは、やはりこの仏教からきたというわけですね。

加藤 だから私としては、仏教さまさまです。仏教に出合ったことがほんとうに嬉しいのです。

だが、私が仏教を信じたから、それで会社がよくなるということはない。有能な人間が揃わなければ、企業の繁栄はあり得ない、だから会社の状態が悪くなれば、こっちの責任です。こっちが悪いから、誰れを恨むこともない。この心境を与えられたのは仏教のおかげです。

世間には、調子が悪くなると、おれは一生懸命やっただけ、社会が不景気になったからだとか、アメリカの景気がど

うだとか、とんでもないことをいう人があるが、私は絶対にそんな逃げ口上は申しません。

みんな自分自身の責任です。そういう自分の責任を痛感すること、それから無限の因縁、このおかげということがだいじです。これは大慈大悲ですね。

(おわり)

伝統と創作・京仏壇仏具

小 堀



感謝の礼拝
平和な家庭

京都店 下京区烏丸通東本願寺前 電話(37)2195(代)
東京店 台東区西浅草1丁目65 電話(843)6961(代)

春秋用の素材	■
なら	■
なんでも……	■
ご一冊	■
お尋ね下さい	■
スライド	■
仏教 など	■
各種制作	■

SNAIL
すねい
教材
センター
千代田区花見川
津島1丁目
(37) 4541

祝 第13回全日本仏教徒(岐阜)大会

日本国有鉄道公認



全国旅行案内・周遊券の取扱
団体旅行の取扱・旅館券の取扱
バス・航空機・船舶の予約受付
海外旅行の取扱

名鉄観光サービス
株式会社

岐阜営業所

岐阜市神田町5の20
TEL岐阜代表(0582)65-8101

全 国 寺 院 名 鑑

完成までの進行予定

(三) 名鑑の部：掲載寺院（各宗派の主な寺院）一万五千ヶ寺のうち一

早急にお知らせ下さい。
尚その後現時点で住所変更の際は

し一部印刷準備完了。
る新住所を最新の資料により確定

(二) 全国寺院の名簿：全都道府県の名簿作成完了、市町村合併等による

(1) 組版期間…3ヶ月間、本年12月末までに完了。

(2) 印刷期間…2ヶ月間、本年11月中旬から43年1月中旬までに完了（組版の終わったものから順次印刷に入る）

(3) 製本期間…1ヵ月間、43年1月中旬から2月中旬までに完了。

(4) 発送期日…43年2月中旬からいっせいに発送開始。

全国寺院名鑑の発刊が予定より大
変おくれ、関係各方面に御迷惑をお
かけしていることを深くお詫び申し
上げます。完成までの予定と現在の
進行状況をつぎのとおりお知らせい

たします。
予定と進行状況
(一) 発刊期日：昭和四十三年二月中
旬（予定表を御覧下さい）

全国寺院名鑑刊行会
全日本仏教会

万四千三百ヶ寺の原稿及び写真の
収集を終り（末着分については鋭
意収集中）添削、加筆中で、添削
の終わったものから順次組版に入
る。従って未寄稿寺院はこの際、
是非とも御協力戴き期日しめ切り
後でも結構ですから大至急原稿を
お送り下さい。

機能とセンスで使うペン



スラチナ ポケット

¥1000~¥3000

祝・全日本仏教徒 岐阜大会

美しい力あふれる孝道山の全景



↑写真(上)孝道山は国鉄東海道線、東神奈川駅前西側の美しい丘陵に、四万平方メートル(一万三千坪)の境内地を擁している。国際港都横浜市を一望に望む景勝の地である。

孝道教団は法華経の正しい
教義を日常生活に生かして実
行する在家仏教の教団です

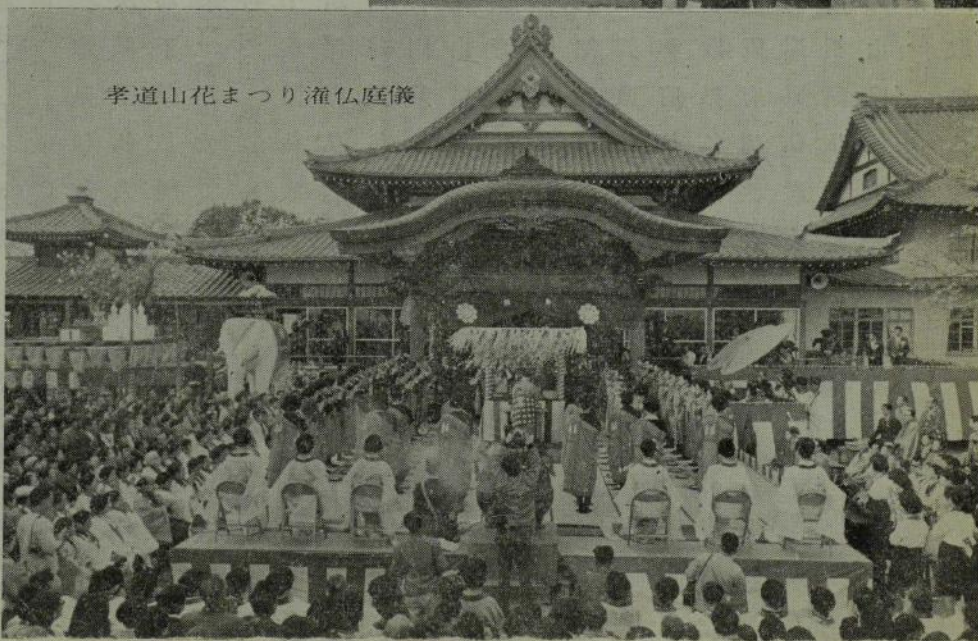
「孝道新聞」を無料で差上げます。ハガキで下記にお
申込み下さい。

横浜市神奈川区孝道山 孝道教団

統理 岡野正道・副統理 岡野貴美子



帰国の喜び



孝道山花まつり 灌仏庭儀

(中)米国四年半の留学を終え、元気に帰山された岡野正貫
野正道統理と貴美子副統理。
野正道統理一家を迎えて孝道山は湧き立った。左は喜びの岡
野正道統理と貴美子副統理。
(下)孝道山・本仏殿前の特設舞台上に毎年四月初旬華やかに
繰り展げられる「孝道山花まつり」灌仏会の庭儀で、青年男女
菩薩の出仕による近代感覚あふれる独特の儀式である。「孝道
山花まつり」は第一日花山車パレード第二日前夜祭第三日灌仏
法要で、五十万の参拝者がある。